

河川改修事業事前評価調書

路線・河川等名		一級河川 ^{ぬかづかがわ} 糠塚川	事業名	緊急自然災害 防止対策(河川) 事業	補助・単独の別	単独
事業主体		京都府	事業箇所(区間)	綴喜郡宇治田原町 ^{たちかわ} 立川 地内		
事業概要	目的	一級河川淀川水系糠塚川は宇治川の二次支川で、宇治田原町中央部を流れる小河川である。田原川合流点から 250m 区間については未改修となっており、河川が蛇行していることから、洪水による浸水等が懸念される。そのため、計画確率降雨(1/3)による洪水を安全に流下させられるよう河道断面を拡大する。				
	内容	整備延長：L=250m 掘削工：V=5,000m ³ 、護岸工：A=1,150m ² 、BOXカルバート工：1基 事業費：約3.0億円				
	上位計画等	京都夢実現プラン 山城地域振興計画 宇治田原町都市計画マスタープラン 淀川河川整備基本方針				
事業の社会経済情勢及び地元情勢等	事業を巡る社会経済情勢及び地元情勢等	○宇治田原町都市計画マスタープランにおいて「 ^{ねだ} 贄田・立川地区」のまちづくり・インフラ整備の一環として、本河川の整備が位置付けられている。				
事業の有効性	事業の効果及び費用対便益等	○河川の流下能力を向上させることで、流域の人命や財産を洪水被害から守ることができることから、投資効果は大きい。				
事業の効率性等	コスト削減代替案立案等の可能性及び良好な環境形成・保全	○河道拡幅を目的にした掘削を行うため、掘削土を近隣での市街化整備事業に流用することで、コスト削減に努める。 ○十分な川幅を確保することで、水際に植生を促し、自然の営力による瀬や淵、濤筋などの形成を図る。				
総合評価		本事業は、洪水から人命や財産を守り、地域の安全・安心を確保するため、新規事業着手の必要がある。				

ぬかづかがわ
一級河川 糖塚川 緊急自然災害防止対策事業

たちかわ
京都府 綴喜郡宇治田原町 立川

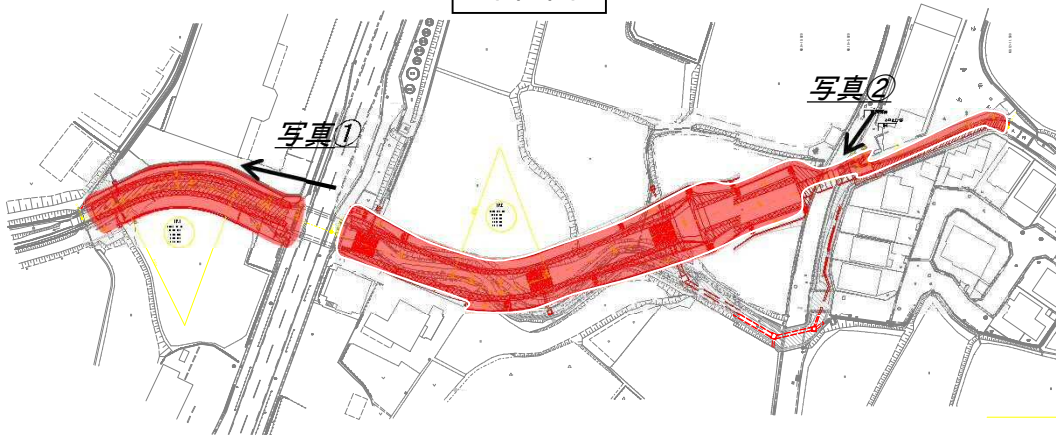
○事業目的

一級河川淀川水系糠塚川は宇治川の二次支川で、宇治田原町中央部を流れる小河川である。田原川合流点から250m区間については未改修となっており、河川が蛇行していることから、洪水による浸水等が懸念される。そのため、計画確率降雨（1/3）による洪水を安全に流下させられるよう河道断面を拡大する。

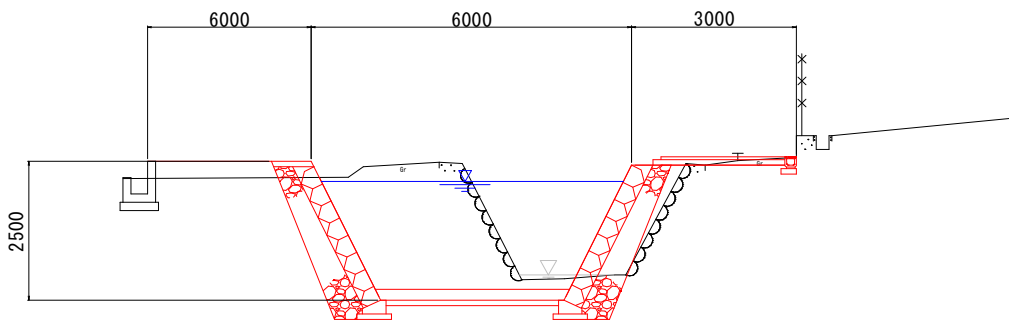
実施内容 : 整備延長 : 整備延長 : L=250m
掘削工 : V=5,000m³、護岸工 : A=1,150m²、
BOXカルバート工 : 1基
事業期間 R4~
事業費 : 約3.0億円



平面図



横断図



『^わ環』の公共事業構想ガイドライン評価シート

作成年月日	令和 4年 3月 22日
作成部署	建設交通部河川課

事業名	一級河川糠塚川 緊急自然災害防止対策（河川）事業	地区名	綴喜郡宇治田原町立川
概算事業費	約 3.0 億円	事業期間	
事業概要	整備延長：L=250m、掘削工：V=5,000m ³ 、護岸工：A=1,150m ² 、BOXカルバート工：1基		
目指すべき環境像	現況河川では洪水による隣接田畑の浸水、家屋への溢水等が懸念されるため、流域住民の安全・安心を確保する。		
関連する公共事業	宇治田原町域における新市街地整備（役場庁舎等）		

	評価項目		施工地の環境特性と目標	環境配慮・環境創造のための措置内容	環境評価
	主要な評価の視点	選定要否			
地球環境・自然環境	地球温暖化(CO ₂ 排出量等)		現況河道が蛇行し、河道断面も十分に確保されていないことから、洪水氾濫の恐れがある。	河道の付け替え及び護岸整備により流下能力の向上を図る。また、十分な川幅を確保することで、水際に植生を促し、自然の営力による瀬や淵、滞筋などの形成を図る。	3
	地形・地質	○			
	物質循環（土砂移動）				
	野生生物・絶滅危惧種				
	生態系				
	その他				
生活環境	ユニバーサルデザイン		沿川に人家が点在しているため、工事期間中は工事車両による騒音・振動を抑制する必要がある。河川の一部付け替えに伴い、一定量の河道掘削が必要となるため、建設発生土を有効利用する必要がある。	工事实施中は、低騒音・低振動機械を使用することを原則とする。積極的な掘削土の工事間流用を行う。	
	水環境・水循環				
	大気環境				
	土壌・地盤環境				
	騒音・振動	○			
	廃棄物・リサイクル	○			
	化学物質・粉じん等				
	電磁波・電波・日照				
その他					
地域個性・文化環境	景観	○	田園を主体とした豊かな自然環境に恵まれていることから、環境変化を最小限に止める必要がある。	護岸材料の選定においては、自然環境との調和を図るよう努める。	3
	里山の保全				
	地域の文化資産				
	伝統的行事				
	地域住民との協働				
	その他				
外部評価					